

叫びたかったせむぎなつこ

ページをめくるたび、また、動画が進むたびに、自分の顔が思わずほころんでいるのがわかりました。「六年生の子たちもきつと喜んでくれるぞ」私はそう確信しました。

今年度の小学生の半日入学は、昨年度と大きく違います。密を避けるために、小学生と中学生の接触を回避します。そのため、一年生による学校説明ができません。そこで彼らを取り組んだのは、「学校紹介DVD」と「瑞浪北中学校紹介冊子」の作成です。これらが私の顔をほころばせたのです。

手作りのDVDと冊子には、彼らの努力と思いやりがぎっしり詰まっています。パソコンの味気ない文字があふれている中、生徒たちの味のある手書きの文字で、冊子の文章は書かれています。DVDを再生すると、要所所に教師の手は入っているものの、出演している生徒たちはありのままの姿で演技や説明をしています。小中学生の接触はありませんが、このDVDと冊子が、両者を温かい関係でつないでくれるような気がします。そんな中、私は冊子を見ていて、急に切なくなりました。明らかに、そのページだけは他と違います。ほころんでいた私の顔も急に真顔になったような気がします。

それは、冊子の「行事・部活動編」行事に関するページです。そこには、乗鞍研修、体育大会、合唱発表会の三つの行事について写真入りで説明されています。ここだけ、温かみのある手書きの文字ではなく、パソコンの文字が整然と並んでいます。差し込まれている写真には、今の一年生の姿はありません。今の二、三年生の姿ばかりです。そのページが目に入ると、私は現実を改めて突き付けられた思いがしました。

ちょうど一年前に先輩たちの説明を聞き、心躍らせて今年度瑞浪北中に入學した今の一年生は、一年生としての学校行事を一つも味わうことができませんでした。そんな彼らが、学校行事について説明することはできません。そこで、このページだけは教師が担当することになりました。

経験がなければ、先輩として語ることはできません。そこだけは教師に任せながら、後輩のためにできる範囲で一生懸命一年生は取り組みました。そんな一年生を、私は誇らしく思います。また、「行きたい」「やりたい」と叫びたかったはずなのに、じつところ、誠実に中学校生活を送ってきた北中生に拍手を送りたい気持ちです。

(二月二日 記)

